

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：国際収支（2006年6月）

発表日：2006年8月10日（木）

～貿易黒字縮小の影響で、経常黒字は2ヶ月ぶりにマイナスに～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 徳永香奈

TEL: 03-5221-4549(DI)

E.mail: tokunaga@dri.dai-ichi-life.co.jp

		原数値 経常収支				季調値 経常収支				
		前年比	貿易・サービス収支		所得収支	前期比	貿易・サービス収支		所得収支	
			前年比	貿易収支			前期比	貿易収支		
04	4-6月期	20.3	25.3	32.8	13.1	▲ 2.2	▲ 8.8	▲ 3.6	8.2	
	7-9月期	6.7	10.7	10.5	3.7	▲ 0.4	▲ 0.1	▲ 4.2	0.6	
	10-12月期	6.4	▲ 7.2	▲ 9.3	25.6	▲ 3.3	▲ 12.8	▲ 10.4	7.3	
05	1-3月期	▲ 8.1	▲ 23.0	▲ 21.4	14.5	▲ 1.0	4.4	2.8	▲ 1.6	
	4-6月期	▲ 9.8	▲ 30.4	▲ 29.7	18.4	▲ 5.4	▲ 30.3	▲ 24.7	14.3	
	7-9月期	▲ 1.5	▲ 35.2	▲ 31.7	28.5	4.4	▲ 2.8	▲ 6.1	4.9	
06	10-12月期	13.6	▲ 8.2	▲ 18.6	30.1	20.8	30.7	10.0	12.7	
	1-3月期	18.5	▲ 13.5	▲ 28.2	42.0	▲ 4.1	▲ 9.4	▲ 6.1	7.2	
	4-6月期	▲ 4.4	▲ 28.0	▲ 18.8	15.7	▲ 16.8	▲ 32.4	▲ 13.2	▲ 7.7	
05	6月	▲ 14.6	▲ 22.4	▲ 24.4	3.5	5.5	8.2	10.5	2.2	
	7月	3.2	▲ 20.2	▲ 21.8	24.2	▲ 4.7	▲ 16.0	▲ 13.2	1.3	
	8月	▲ 16.1	▲ 93.3	▲ 69.4	28.1	4.5	11.1	3.4	1.4	
	9月	6.1	▲ 19.3	▲ 20.8	33.7	5.1	▲ 4.5	▲ 0.5	7.1	
	10月	7.3	▲ 20.8	▲ 29.7	45.7	12.8	33.5	1.0	5.9	
	11月	17.3	16.7	▲ 0.8	11.4	▲ 9.2	▲ 10.9	11.0	▲ 11.1	
	12月	16.1	▲ 9.9	▲ 16.8	39.6	27.6	16.4	2.1	29.1	
	06	1月	2.5	赤字	赤字	33.7	▲ 18.5	▲ 13.9	▲ 20.8	▲ 10.6
		2月	10.8	▲ 7.0	▲ 11.8	32.9	6.6	8.3	28.8	3.6
		3月	34.3	6.7	▲ 6.8	58.0	▲ 1.7	▲ 18.0	▲ 14.3	9.6
		4月	▲ 20.2	▲ 65.0	▲ 33.9	12.8	▲ 34.0	▲ 75.9	▲ 37.6	▲ 15.3
		5月	15.9	25.2	7.0	15.7	39.1	427.4	87.6	▲ 10.8
6月		▲ 7.2	▲ 14.4	▲ 12.7	23.2	▲ 2.4	▲ 41.3	▲ 25.4	29.4	

(出所)財務省「国際収支状況」

## ○ 貿易黒字縮小の影響で、経常黒字は2ヶ月ぶりにマイナスに

6月の経常黒字額は前年比▲7.2%の10,167億円（原数値）と2ヶ月ぶりに前年比マイナスに転じ、事前の市場コンセンサス（11,819億円、前年比+7.9%）を下回った。内訳をみると、所得収支が前年比+23.2%と黒字幅を拡大させ、サービス収支も同▲7.1%と赤字幅を縮小させたものの、貿易黒字のマイナス幅（同▲12.7%）が大きかったためカバーしきれなかった。原油価格の高騰が続いていることから輸入金額が前年比+20.2%（前月同+20.1%）と前月並みの高い伸びとなった一方、輸出金額が前年比+14.0%（前月同+18.8%）と伸びがやや鈍化したことから貿易黒字は再びマイナスに転じた。

所得収支は、①証券投資収益が対外資産の累増を背景とした外国債券の受取利子が増大していることから安定的な増加基調を辿っていることに加え、②直接投資収益についても海外子会社の業績が好調であることを反映して堅調に推移しているため拡大傾向が続いている。6月は前年比+23.2%と前月（同+15.7%）から伸びが拡大したが、これは為替レートが円安に推移（5月：1ドル=111.5円→6月：1ドル=114.5円）

したことによって円ベースでの受取り額が増加したことも影響したと考えられる。

サービス収支については、輸送の赤字幅は拡大したものの、旅行の赤字幅が縮小したこと、及びその他サービスの黒字幅が拡大したことから、全体として2ヶ月連続で赤字幅が縮小した。その他サービス収支については、三国間貿易の拡大や海外子会社の業績好調を背景として、特許使用料や仲介貿易・その他貿易関連サービスの受取りが増加基調を辿っている。

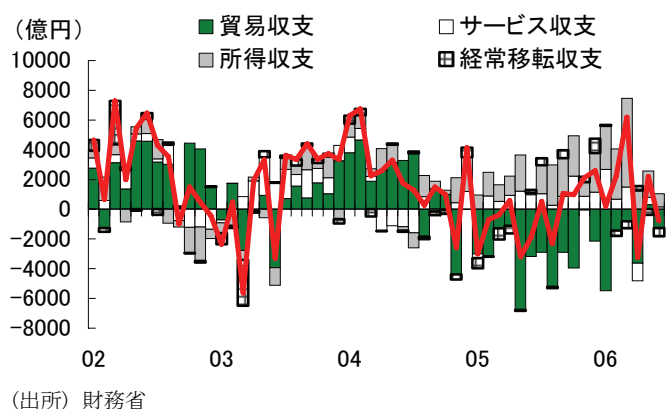
### ○ 貿易黒字は米国経済の減速と原油価格の動向次第

先行きに関しては、所得収支黒字が順調に拡大していくと予想されるなか、貿易黒字の推移が今後の経常黒字の動向の鍵を握る。

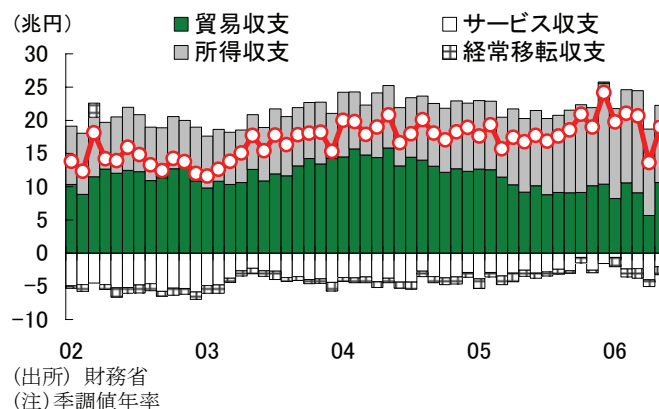
輸入金額を押し上げている足もとの原油価格の動向をみると、6月の原油価格（輸入C I F価格）は1バレル67.8ドルと過去最高水準を更新し、前年比でも上昇テンポが加速（5月+29.8%→6月+36.9%）している。ただし、さらなる原油価格の上昇がなければ、前年対比でみた輸入金額への押し上げ寄与は徐々に剥落していくと考えられる。一方、輸出金額については伸びの鈍化が予想される。これまで輸出を牽引してきた米国向けの輸出に陰りが出ているからだ。米国経済は家計部門において減速感がみられており、輸出に先行するOECD景気先行指数や米国ISM製造業新規受注が減速してきていることなどを踏まえると増加ペースは鈍化してくると判断される。もっとも、米国経済の減速は小幅にとどまる見込みであり、輸出が大幅に落ち込むことは回避できると考えられる。輸出は増加ペースが鈍化すると考えられるものの、基調としては底堅く推移しよう。貿易収支に関しては、米国経済の減速ペースと原油価格の動向に左右されつつ、一進一退の状況を見込んでいる。

経常収支全体では、貿易黒字はやや軟調な動きとなるものの、所得収支の黒字拡大とサービス収支の赤字縮小が下支えする形で増加トレンドが今後も続くとみられる。

図表1 経常収支・前年差

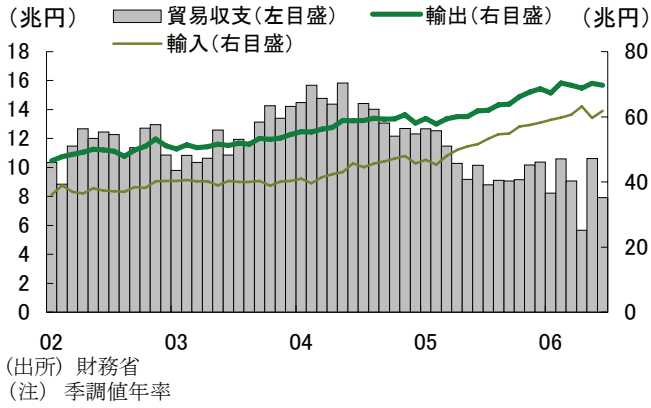


図表2 経常収支（季調値）

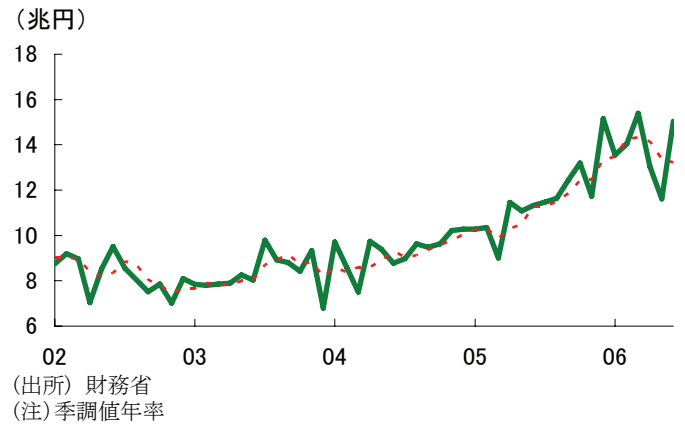


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

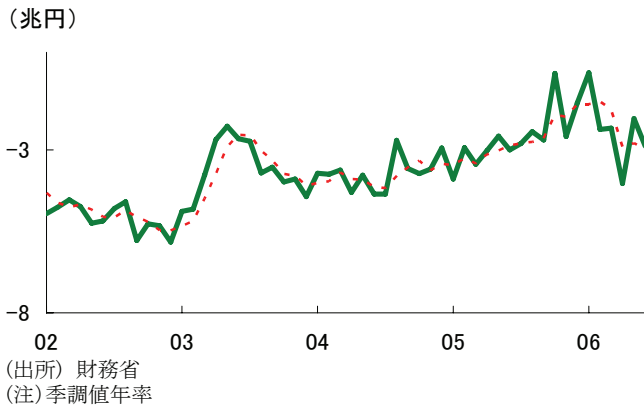
図表3 貿易収支



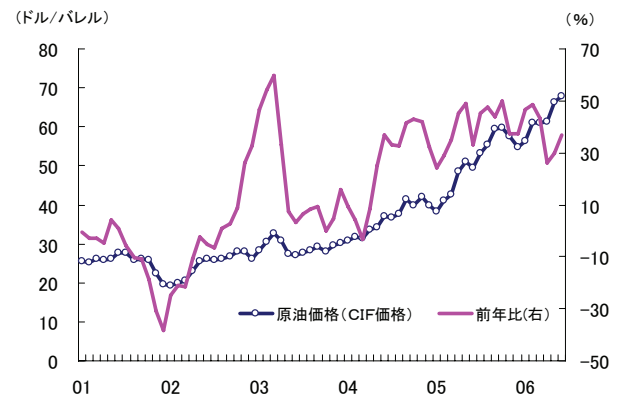
図表4 所得収支



図表5 サービス収支の推移



図表6 原油価格の推移 (C I F 価格・前年比)



以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。